

## 審議会会議録

1	会議の名称	平成22年度富津市次世代育成支援行動計画推進会議
2	開催日時	平成22年10月13日 午前10時00分～午前11時50分
3	開催場所	富津市役所401会議室
4	審議等事項	(1) 富津市次世代育成支援行動計画推進会議委員委嘱状交付式 (2) 委員長・副委員長の選任について (3) 次世代育成支援行動計画後期計画について (4) 次世代育成支援行動計画平成21年度実施状況報告について
5	出席者名	委員 小林美奈子、竹内好美、藤川正美、加藤岡知子、堀越秀樹、山寄豊、柳川通雄、鈴木肇、平野延雄、川崎直子、鈴木千鶴子、青木和彦、榎本信弘、西崎みづほ、矢房麻里子 事務局 佐久間市長、森田健康福祉部長、石井児童家庭課長、鈴木主幹、渡邊社会福祉主事
6	公開又は非公開の別	公開 ・ <del>一部非公開</del> ・ <del>非公開</del>
7	非公開の理由	富津市情報公開条例第23条第 号に該当 (理由)
8	傍聴人数	0 人(定員5人)
9	所管課	健康福祉部児童家庭課児童家庭係 電話 0439-80-1256
10	会議録(発言の内容)	別紙のとおり

平成 22 年度富津市次世代育成支援行動計画推進会議議録

発言者	発言内容
佐久間市長	<p>委嘱状交付式</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 開会の挨拶</li> <li>・ 委嘱状交付</li> <li>・ 市長挨拶</li> </ul> <p>&lt; 市長退席 &gt;</p>
事務局 各委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事務局紹介</li> <li>・ 委員自己紹介</li> </ul>
石井課長	<p>平成 22 年度次世代育成支援行動計画推進会議</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 開会の挨拶</li> <li>・ 資料の確認</li> <li>・ 会議の成立について</li> </ul> <p>富津市次世代育成支援行動計画推進会議設置要綱第 6 条第 2 項により推進会議は、委員の過半数の出席しなければ会議を開くことができないとされております。本日は委員数 20 名中 15 名の出席ですので会議は成立とさせていただきます。</p>
森田健康福祉部長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 健康福祉部長挨拶</li> </ul>
石井課長	<p>議事（1）委員長・副委員長の選任について</p> <p>議事に入りますが、富津市次世代育成支援行動計画推進会議設置要綱第 6 条第 1 項において、委員長が議長となると定められておりますが、委員長・副委員長についてはまだ選任されておられませんので、森田健康福祉部長を仮議長とし議事を進めて行くことよろしいでしょうか。</p>

<p>各委員</p>	<p>異議なし</p>
<p>森田健康福祉部長</p>	<p>・委員長の選任について          それでは、富津市次世代育成支援行動計画設置要綱第5条第1項に基づき、委員長の選任を行います。</p>
<p>川崎委員</p>	<p>どなたかの自薦、推薦はございますか。          藤川委員を推薦いたします。</p>
<p>森田健康福祉部長</p>	<p>藤川委員の推薦がありましたか、他に推薦等はございますか。</p>
<p></p>	<p>他にいないようですので、藤川委員を委員長とすることについて賛成の方の挙手を求めます。</p>
<p></p>	<p>&lt;全員挙手&gt;</p>
<p></p>	<p>それでは、藤川委員が委員長へ選任されました。よろしくお祈いします。藤川委員につきましては、前の委員長席へお祈いします。</p>
<p>藤川委員長</p>	<p>委員長が選任されましたので、議長を委員長へ交代させて頂きます。</p>
<p></p>	<p>・藤川委員長挨拶</p>
<p>藤川委員長</p>	<p>・副委員長の選任について          それでは、議長として議事を進めさせて頂きます。          続いて、副委員長の選任を行います。</p>
<p>榎本委員 藤川委員長</p>	<p>どなたかの推薦はございますか。          鈴木千鶴子委員を推薦いたします。          鈴木千鶴子委員の推薦がございましたが、他に推薦等はございますか。          他にいないようですので、鈴木千鶴子委員を副委員長とすることについて賛成の方の挙手を求めます。</p>

	<p>&lt; 全員挙手 &gt;</p>
藤川委員長	<p>それでは、鈴木千鶴子委員が副委員長へ選任されました。鈴木委員につきましては、副委員長席へお願いします。</p>
鈴木副委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・鈴木副委員長挨拶</li> </ul>
藤川委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・会議録署名人の指名</li> </ul> <p>会議録の署名人については、委員名簿順としたいと思います。今回は、小林美奈子委員にお願いしたいと思いますが、皆様それでよろしいでしょうか。</p>
各委員	<p>異議なし</p>
藤川委員長	<p>それでは、小林委員お願いします。</p>
藤川委員長	<p>議事（２）次世代育成支援行動計画後期計画について事務局から説明をお願いします。</p>
渡邊社会福祉主事	<p>次世代育成支援行動計画（後期）について説明させていただきます。</p> <p>本市では、次世代育成推進法に基づき平成 17 年 3 月に策定いたしました富津市次世代育成支援行動計画「いいじゃないか！ふっつ」に基づいて、次世代支援の施策・事業を推進しております。</p> <p>この行動計画は、5 年を一期としての策定が義務づけられております。前期計画は、平成 17 年度から平成 21 年度で、その成果検証を昨年度行い、計画期間が 22 年度から 26 年度までの後期行動計画を平成 22 年 3 月に策定いたしました。</p> <p>策定の基本的な方針としましては、少子化対策が継続的・安定的な施策の継続性が求められることから、市民のパワフ</p>

ルな発想や行動と協働の精神を基調とした「いいじゃないか！ふっつ」の基本理念及び子どもの成長段階に応じた4つの目標と育児期全般にわたる目標を掲げた計画を基本としております。後期計画は、前期計画の施策の状況を総括し、課題や国・県の少子化対策及び次世代育成支援の動向を踏まえ、必要な施策を盛り込んでいます。

では、どのように計画を策定したかですが、お手元の計画書の97ページをご覧ください。後期計画策定に係る経緯を掲載してあります。

本計画作成にあたっては、市民の子育て支援に関する生活実態や要望などを把握するため平成21年6月15日から7月3日まで、就学前児童を持つ保護者700人と、小学生児童を持つ保護者800人を対象に富津市次世代育成支援に関するアンケート調査を実施いたしました。

このニーズ調査結果や後期行動計画の素案について、平成21年12月17日から平成22年1月13日までパブリックコメント手続により、計画に対する市民の声を聞き、富津市次世代育成支援行動計画推進会議を始め幹事会、庁内会議などに諮り、平成22年3月に策定いたしました。

それでは、計画の内容について説明させていただきます。7ページをご覧ください。妊娠期・出産期の目標として「あかちゃんっていいじゃないか！」です。これから親になるための準備期間として、母親学級、マタニティ講座や新生児・産婦訪問などより子育てスタートを応援していきます。

2番目として、9ページをご覧ください。乳児期・幼児期の目標として「大きくなるっていいじゃないか！」です。親子の成長の支援として、育児教室、保育事業、地域子育て支援センター事業などにより子育ての負担を軽減し、乳幼児期を応援していきます。

3番目として、11ページをご覧ください。学齢期・思春期の

目標として「がんばるって、いいじゃないか！」です。教育センターを中心として、子どもの個性と能力を發揮していくことのできる環境づくりを目指し、道徳教育、福祉教育などにより思春期の子ども達を応援していきます。

4番目として、13ページをご覧ください。活動期の目標として、「つながるって、いいじゃないか！」です。新たな地域文化の創造と良い世代を育成するために青少年相談員活動、子ども会事業、スポーツ少年団事業などにより地域社会とのつながりや次世代育成を応援していきます。

15ページをご覧ください。育児期全般の事業として「ホッとするって、いいじゃないか！」です。交通安全教室、子ども110番の家事業など全ての人に優しい生活環境を目指し、安心できる町づくりを応援していきます。

19ページをご覧ください。続いて後期計画の重点目標です。重点目標の1として子育てに関する経済的支援です。児童に対する医療費の助成は昨年度までは、就学前の児童に対してのみ乳幼児受給券による助成を行っていましたが、今年度より小学校入学から卒業までの子どもの医療費については償還払いによる子ども医療費の助成制度が始まり、就学前の子どもについては受給券、小学校入学から卒業までの児童の医療費に対して、償還払いによる助成制度により医療費支援をしていきます。今後も子ども医療費制度については、拡充を目指して行きたいと考えております。

重点目標の2として子育て機能の充実として、働いている家庭の支援として、学童保育クラブの拡充、子育て支援センターの拡充を図っていきます。学童クラブについては、今年6月に佐貫地区に新たに開設され、現在市内6箇所となっています。今後も民設民営による学童保育クラブの拡充を目指して行きたいと考えております。また、子育て支援センターについては、現在計画中である複合施設に併設し、子育ての

拠点となるものとして検討しています。

重点目標の3として、親子のコミュニケーションを促進する環境整備の充実として、児童遊園地の遊具の更新などの環境整備を図って行きたいと考えております。

21ページをご覧ください。さきほどご説明いたしましたが、本計画を効果的に推進するためにそちらにありますようにPDCAサイクルによる見直しを行ってまいります。

23ページについては、前期計画の目標達成状況を掲載してございます。全事業の目標達成状況の表をご覧ください。前期計画事業総数164事業のうち、具体的な目標を設定した48事業の達成状況は、達成が32事業、達成率67%、一部達成が9事業19%、未達成が7事業14%、残りの116事業は継続でございます。また、こちらは、後期計画を作成する上での前期計画の総括となっております。ただし、平成21年度の途中までの評価ですので、平成21年度の実績については、後ほど説明させていただきます。主な事業別の達成状況については、27ページまで記載してあります。

28ページ以降については、後期計画5つの基本目標、22の主要施策、重複事業を含めた全158事業の事業別の概要を記載しております。後期計画新規事業については、40ページおはなし会、41ページのゆめーる事業、42ページの認定こども園、45ページの布絵本貸し出し、ピッコロ学級、47ページの移動図書館、51ページの保育料3子目無料、63ページの学校体育施設開放事業です。

74ページ～78ページまでは、後期計画における関係機関リストになります。

79ページ～96ページまでは参考資料となっており、アンケート調査の概要、少子化の現状について、アンケート調査の主な集計結果が掲載してあります。

また、後期計画書及び概要版には、音声コードを導入し、

<p>藤川委員長 川崎委員</p>	<p>活字文書読み上げ機器（T e l l m e）に対応するものとなっております。</p> <p>以上で、次世代育成支援行動計画の説明を終わらせていただきます。</p> <p>事務局の説明について質問等ございますか。</p> <p>この計画の中で欠けているものとして、色々な地域で盛んに行われている婚活があると思います。私の身近にも少子化といっても出会いが無い男性がいます。私は「スイートピーの会」というのをやっております、婚活支援をしております。子どもの生まれる前の婚活支援についてどのようにしているか伺います。</p>
<p>石井課長</p>	<p>婚活については、市民課において結婚相談等の事業を行っています。特殊出生率が下がっていますので、婚活などからどのように子どもを増やしていくかの施策を盛り込むべきですが、市民課が既に行っている事業のため、この計画には盛り込んではいないものです。</p>
<p>川崎委員 鈴木副委員長</p>	<p>わかりました。</p> <p>これから富津市を担っていく子ども達が富津市で結婚をして、子育てしたいという長い展望で見たときに次世代育成という意味でこの会議で話し合っていく場として考えてみても良いのではないのでしょうか。</p>
<p>石井課長</p>	<p>この計画は、国の少子化対策基本法に基づいた市町村の行動計画ですので、結婚をする人を増やすことなどを協議して頂きたいと思います。</p>
<p>藤川委員長</p>	<p>他にございますか。特に無ければ議事（２）については終了いたします。</p>
<p>藤川委員長</p>	<p>議事（３）次世代育成支援行動計画平成 21 年度実施状況報告について</p> <p>事務局から説明をお願いします。</p>

それでは、次世代育成支援行動計画の平成 21 年度の実施状況について、説明させていただきます。お手元の富津市次世代育成支援行動計画平成 21 年度実施状況報告書をご覧ください。

今回の調査は、平成 22 年 6 月 9 日から 6 月 25 日までの期間において 22 関係機関の協力を得て実施しました。

調査方法としては、平成 21 年度の実績値を記入していただき、A「前年度より規模を拡大」、B「内容と規模を継続」、C「検討・計画中」、D「廃止・終了」の 4 つの中から平成 21 年度を評価していただきました。

続いて、今後の方向性として平成 22 年度以降に向けた方向性や課題を記入していただき、1「拡充」、2「成果維持」、3「縮小」、4「廃止・終了」の 4 つの中から今後の方向性について設定していただきました。

その結果のまとめが 1 ページ目下の欄にあります調査結果のまとめとなります。なお、今回の調査は、前期計画最終年の実績調査となっております。

それでは、そちらにある表についてですが、前期計画 164 事業の 21 年度実績と今後の方向性を組み合わせたクロス表となっております。この二つを組み合わせることにより事業の翌年度以降の評価を行っています。

A-1 として前年度より実績が上がっており、今後も拡充を目指している主なものとして、13 ページの児童虐待防止連絡会議、こちらは、平成 22 年 2 月に富津市要保護児童地域対策協議会として組織を整備し、虐待防止に向け、関係機関との調整や啓発活動を行って行きたいと考えております。またその他としては、16 ページの国際交流協会補助事業であるとか、17 ページの情報教育事業などが挙げられます。

A-3 の実績は伸びたが今後は縮小も視野として入っている事業として、23 ページの市営住宅管理や防犯灯新設工事が挙

げられます。

B-1 は、実績は前年並みでこれから拡充をする事業として、14 ページの今年度より子ども医療が始まった乳幼児医療や 15 ページの今年度より父子家庭へも拡充する児童扶養手当などがあります。

B-3 は、今後事業の縮小も視野に入れている事業として、21 ページのふれあいスポーツフェスタ事業が挙げられています。

C の 21 年度として事業を行っていないものとしては、12 ページのファミリーサポートセンター事業や 27 ページの子育て情報誌の作成などです。

D の事業が廃止終了している事業としては、7 ページの在宅訪問療育等指導事業や 17 ページの富津中学校校舎改築工事などが挙げられます。

この調査結果の詳細については、3 ページ以降に掲載してあります。

続きまして、2 ページの特定 14 事業についてです。特定 14 事業は国の行動計画策定指針に報告義務があるものとして示されている事業です。

平成 20 年度と平成 21 年度の延べ人数等で表し、事業量を比較したものとなっております。ハイフンの事業については、現在当市において行っていない事業であります。

具体的には、1 通常保育事業は、現在公私立あわせて 11 園定員 1,010 名のもと行っています。事業量としては、7,227 名であり、前年度と比べて 220 名の減少となっております。

2 延長保育事業については、私立保育園 4 園で実施しています。事業量は、1,141 名であり、前年度比べ、78 名の減少となっております。

5 休日保育事業については、日曜・祝日に開所している事業として私立保育園 3 園で実施しています。事業量としては、

948名であり、前年度と比べ79名の減少となっております。

6 放課後児童健全育成事業、学童保育については、平成21年度として、富津保育園、青堀保育園、飯野小学校、大貫小学校、竹岡小学校で行っており、小学校については、保護者が運営し小学校の空き教室にて、青堀保育園については、保育園隣のアパートにて、富津保育園は、保育園内で行っております。定員は、5団体で145名となっております。学童保育クラブについては、本年6月に佐貫小学校に保護者会運営によるさめキッズが開所しております。近年学童保育に対する需要も高まっていることから、後期計画において民設民営により新規クラブの発足を働きかけていきたいと考えております。

事業量としては、1,224名と前年と比べて168名の減少となっております。

10 一時保育事業ですが、公私立10保育所で実施しています。事業量としては、1,621名と就労形態の多様化や緊急時の保育に対応する事業として特別保育としては一番事業量が高いものとなっております。ただし、前年と比べて209名の減少となっております。

13 地域子育て支援センター事業ですが、青堀保育園と和光保育園で行っています。

事業量としては、2箇所設置であり、増減はありません。

14 つどいの広場事業は、子育てに関する精神的な不安や悩みを軽減するものとして子育て中の親子が気軽に集い、相談交流が出来る場の事業です。事業量としては、公立保育所が中心となり8回実施しています。

以上、事業量としてどれも減少していますが、その主な原因として、年度に保育ニーズが異なることや、少子化の影響による児童数の減少が考えられます。

3 ページ以降は、各課等からの調査票をまとめたものとな

<p>藤川委員長 竹内委員 渡邊社会福祉主事</p> <p>川崎委員</p> <p>石井課長</p>	<p>っています。こちらのほうに先ほど説明させていただいた事項が記載されています。5つの基本目標と22の主要施策にそれぞれの推進事業という構成となっています。事業として数字実績があるものについては、実績値を回答していただき、記載してあります。</p> <p>以上で、私からの説明を終わらせて頂きますが、引き続き事業の推進につきましてご協力をよろしくお願いいたします。</p> <p>事務局の説明について質問等ございますか。</p> <p>つどいの広場事業はどこで行われているのでしょうか。</p> <p>つどいの広場事業については、市役所のホールにて4回、各保育所を回るものとして4回行われています。いつ行われているかについては、広報等で紹介をしておりますのでご確認をいただければと思います。</p> <p>富津市の保育所についてもっとPRをして行った方が良いのではないのでしょうか。</p> <p>先ほどのつどいの広場の補足ですが、おひさま広場事業として、市役所のホールでは、1歳6ヶ月健診などを行うときに母子を対象に行っているものと、公立保育所の持ち回りで行っているものがあります。例えば金谷保育所で磯遊びを企画して行い70人位の参加がありました。また、峰上保育所ではザリガニ釣りなどを企画し行っています。この事業については、まだ保育所や幼稚園に入所・入園していない子どもやその親を対象に保育とはどういうものなのかを体験していくものです。</p> <p>また、公立保育所の入所率が現在下がってきておりまして、平成21年度53.7%という現状です。その内公立保育所で21人、私立保育園で131人の他市の児童を預かっています。これからも保育所のPRをして富津市から出た人が帰ってきてもらえるようにして行きたいと考えております。</p>
--	---

柳川委員	<p>小中学校校舎等耐震化事業が 17 ページにあります。小中学校の古い校舎では、トイレが非常に汚いという衛生面の問題があります。衛生面は非常に重要な事だと思っておりますが、市としてはどのように考えていますか。</p>
石井課長	<p>本日の会議には、他部署の職員は参加しておりませんので、このご意見につきましては、教育委員会に伝えておきたいと思っております。</p>
柳川委員	<p>よろしく申し上げます。</p>
竹内委員	<p>一時保育についてですが、各保育所で行われている時間等を教えて下さい。</p>
鈴木主幹	<p>公立保育所では、通常の保育時間 8 時 30 分から 17 時位までです。</p>
榎本委員	<p>私立保育園については、保育時間内であれば対応していると思っております。</p>
竹内委員	<p>わかりました。</p>
加藤岡委員	<p>3 ページなどで行われている母親学級や乳幼児相談などは重要な事業だと思いますので、もっと参加者を広げた方がよいのではないのでしょうか。</p>
森田健康福祉部長	<p>ご指摘のありました事業については、健康づくり課の保健師を中心に行っている事業です。5 ページに掲載されている健診などの事業実績に偏りがありますが、最近ではメタボ健診に力を入れるなど年度ごとに重点事業があるということもあります。実績が少なかった事業については、反省点として今後に生かしていきたいと考えております。</p>
小林委員	<p>6 ページの障がい児保育ですが、この数字は、既に保育園等に入る段階で手帳等を持っている人の人数でしょうか。また、障がいとはいかなる児童などグレーゾーンにいる児童については、市としてはどのように対応していますか。</p>
渡邊社会福祉主事	<p>まず、人数については手帳等を持っている人の実績値となっております。次にグレーゾーンの児童への対応ですが、市で</p>

	<p>は、保育所で気になる児童に対して君津特別支援学校に依頼をし、毎年一回全保育所・保育園を巡回指導して頂いております。</p>
<p>小林委員 竹内委員</p>	<p>わかりました。</p>
	<p>アンケート調査報告書の 83 ページにあるような不満に思うことはあると思うので、市としてもそういった人たちの気持ちもわかって頂きたいと思います。また、健診時に私の子どもが眼の異常に気づいてもらえなかった経験があるのですが、眼などの分野で医者などのそれぞれの専門家の人を配置して頂けたらと思います。</p>
<p>森田健康福祉部長</p>	<p>専門医の配置については、なかなか難しい面がありますが、保健師も勉強し努力をしておりますので、ご意見を参考にし、現場に反映させて行きたいと考えております。</p>
<p>青木委員</p>	<p>今後の方向性として財政面がクリア出来ないとなかなか拡大できない問題だと思っておりますが、市としてはどのように考えていますか。</p>
<p>森田健康福祉部長</p>	<p>今日のこの会議の内容については、関係部局に伝えまして、予算や重点施策の検討を行ってもらい、少しずつでも反映させて行きたいと考えております。</p>
<p>青木委員</p>	<p>お願いします。</p>
<p>藤川委員長</p>	<p>他にございますか。特に無ければ議事(3)については終了いたします。</p>
	<p>・その他</p>
<p>藤川委員長</p>	<p>その他として何かありますか</p>
<p>鈴木副委員長</p>	<p>私は、前期計画から携わっているのですが、前期計画を作ったときに感じたことを当時まとめたものがありますので、紹介させて頂きたいと思います。</p>
	<p>「富津市長より委嘱された 21 名のメンバーで委員会を組織し、平成 17 年度実施を目指して作り上げたのが、既に富津市</p>

内の各家庭に届いているダイジェスト版「いいじゃないか！ふっつ」です。この計画は国の「少子化社会対策基本法」を踏まえ、全国的に各市町村の行動計画を策定し次世代育成に取り組んでいくということです。この取り組みに先駆けて富津市の合計特殊出生率が1.03という数字が提示されました。ちなみに国は1.29、県は1.20です。富津市は国や県よりも早く少子化が進んでいるということです。このことが財政面だけで取り沙汰されるのではなく、もっと深いところで考えていくことがあると思います。富津市で生まれ育っていく子ども達。富津市に愛着を持って生きてきた人たち。富津市を気に入って住み移ってきた人たち。誰もが富津市が栄えていくことを願っているはずで、富津市民で良かったと誇りをもちたいと願っていると思います。しかし、その想いをどうやって表現したらいいのか、表現してもいいのか、いやどうせ言ってもしょうがないというささやかな行政への不信感も感じられます。とはいえ、市民で創り上げていく富津市、子育てするなら富津市を目指していくことは、夢であってはいけないと私は思います。

ということで、今回行政が仕掛け人になって、公募も含めて子どもや子育て家庭に関わる多種多様な専門機関や色々な立場の人たちが、同じフロアーに立って喧々囂々意見を出し合い、富津市のこれからを作り上げていく次世代育成支援行動計画策定委員会を組織していただけたことは、市民が参加、参画していくきっかけになれそうな期待をしての参加でした。そうして考えたとき策定委員会の存在は大きいし、責任の重い仕事だと思いましたが、ボランティア連絡協議会の代表としての私にとっては、弱い立場にいる障がい児親子や乳幼児の親子の声を訴えていく最高のチャンスを受けたような気持ちで、胸が躍ったのも正直なところです。

今回の策定会議については、「富津市民のパワフルな発想と

行動（エンパワメント）」と「協働の精神」を基調にお互いを認め合い、激励が飛び交い、喜び合える次世代育成を目指そう、という基本理念を糸口にして行動計画を創り上げる作業を行いました。この基本理念の中にある、「そのために行政は努力します。各組織や企業にもお願いします。」は、私たち市民にとっては心強い言葉であるし、行政と共にやっていけることを実感した温かい言葉でした。官も民も一丸となって自分の町を作り上げていく作業が、この富津市で繰り広げられることに胸躍らされた一年間の策定会議でした。「誰もわかってくれないとか言ってもしょうがない」と思ってしまう市民レベルではなく、それを吸い上げようとしている行政サイドとの折り合いをつける関係を、今こそ作り上げる時が来たように思いました。

既に行動計画は出来上がりましたが、仕上げるまでの作業は、行政側の担当部署がアンケート調査などたくさんの情報収集をして資料を作成し、専門職や知識人、地域のリーダー、乳児から学童期までに関わる人たちなどで意見交換をします。ざっくばらんな雰囲気での会議は、誰にでも分かりやすく、誰にでも見てもらえるダイジェスト版にしたい思いが実現できる要因だったと思います。

しかし、創り上げて終わりでないことを私たち策定委員会は、心の中で誰も感じていると思います。まだスタートしていない計画ですし、諸々の厚い壁を叩きながら実施、実現を感じます。しかし、策定委員の方々の関わっている諸団体の人たちや社会福祉に関わる人たちの経験豊かな英知を地域の中で大いに活用すること。また、この方たちが地域の人たちを繋いでいく役割を持っていくこと。まさしくマンパワーをもって富津市の次世代育成が実現できることを期待したいと思います。」

ということが、平成 17 年度に私が感じた思いでした。本日

石井課長

このような冊子が出来上がって飛躍的な成果というものの手応えはあまりありませんが、地道な成長はしているのかなと感じています。

また、私たちがこうやって一度に会し、物事を語れる場があるということは大きな励みになります。ここでの会議の言葉を行政側が議会に持っていく場に私たちがいるのだとすれば、忌憚の無い意見を出し合えれば良いのかなと思いました。

その他として、計画書の 63 ページをご覧ください。こちらに「いいじゃないか！ふっつ」推進員というものがございます。「いいじゃないか」のイと「ふっつ」のフを足して「イフ推進員」と呼んでいるものです。

この推進員は民生児童委員、富津市社会福祉協議会の方々、更生保護婦人会の方々など現在 198 人になって頂いており、民生員の任期が終わっても引き続き推進員としてお願いをしております。推進員の具体的活動としては、子どもに対して意識を持って「おはようございます」や「いってらっしゃい」などの声かけ運動をしていきたいと思いますというものです。

前期計画委員の方々にもこの推進員になって頂きましたので、つきましては、後期計画新規委員の方々にも是非とも推進員になっていただきたいと思っております。よろしく願います。

森田健康福祉部長

本日様々な意見を頂きましたが、前期計画を作る際に行政と市民の方々がこの推進会議を通して、前期計画は手作りで作り上げたものでした。計画の基本理念が「いいじゃないか！ふっつ」として表れていますが、「いいじゃないか！ふっつ」と言い合えるような計画を目指して、前期計画は種まき期間として取り組み、後期計画は実りの期間として取り組んでいきたいと思っております。

また、先ほどの保育所の入所児童ですが、他市の児童を預かっている人数として 150 人～160 人です。逆に富津市から

	<p>他市にお願いをしている人数は 5 人程度です。保育所に係る費用として約 6 億円を支出していますが、歳入としては、国県から 1 億 2,3 千万円、保育料が 1 億 6 千万円です。すなわち 3 億円以上、市からの支出ということになっています。こういった状況について、富津市は預けやすいことを PR していきたいと思っております。</p> <p>また、前期計画の中で最も要望が多かったものとして、「子どもの窓口一本化」です。なかなか難しい問題ですが、今後とも教育委員会と健康福祉部が協力・連携しながらやっていきたいと考えております。そういった前期計画の達成出来なかった事業等ございますので、引き続き委員の皆様にはご協力をお願いしたいと思います。</p>
藤川委員長	<p>次の会議日程は決まっていますか。今年度はもう無いのでしょうか。</p>
石井課長	<p>本年度の次の会議については、ございません。来年度に開催をいたします。</p>
藤川委員長	<p>次回会議開催時には、委員の皆様へ早めの資料配布、議題内容の提示をお願いします。</p>
石井課長	<p>わかりました。</p>
藤川委員長	<p>一階の行政資料コーナー、ホームページにて平成 16 年からの全ての会議録がありますので、計画策定の経過がわかりますので、皆様にも読んで頂けたらと思います。</p> <p>他に特に無ければ、以上をもちまして、平成 22 年度富津市次世代育成支援行動計画推進会議を閉会させていただきます。</p> <p>本日は、皆様ありがとうございました。</p> <p>閉会</p>